

2. 2. 試験研究

2.2.1. 題目 白薩摩焼容器内釉の試験

寺 尾 作次郎

〔目的〕表面は白薩摩個有のヒビを生かし内部は酒精等の浸透を防ぐためヒビを生じない釉を得るため。

〔概要〕従来使用中の白生地に17種、釉を調合し焼成試験の結果次の調合釉が最も良好であつた。

釜戸長石…15% 天草石…60% 珪石…5% ネズミ石灰…20%

焼成温度…SK9~11番

然し中にはまだ水洩れのするものも生じたので、更に原土配合、焼成温度等試験を要する。

2.2.2. 題目 吉利粘土の試験

寺 尾 作次郎

〔目的〕生掛けに適する黒生地土を得るため。

〔概要〕

(i) 吉利 2号土…50% 揖宿 2級土…30%
木節土…20%

(ii) 吉利 2号土…30% 揖宿 2級土…30%
木節土…20% 吉利 1号土…20%

(iii) 吉利 2号土…50% 揖宿 2級土…30%
吉利 1号土…20%

粉合せの配合率で作品の生乾きの時従来使用中の白化粧土を掛け更に乾燥後白、黒釉を施し、焼成温度1,250°C~1,280°Cで (i)、(ii)、(iii)の順で良好、但し(iii)は可塑性稍乏しく成形が充分でない。

2. 3. 雑 録

2.3.1. 白薩摩坯土に適する釉薬配合割合について

〔目的〕リチャード・ヒーズ氏が白薩摩坯土を利用して作

陶するため最も本人の好みに適する釉薬の配合割合を得るため。

〔概要〕宮崎県真幸黄土を利用した有色釉のうち下記のものを使用した

No.20. 松木灰… 8 真幸黄土… 5

酸化鉄…0.5

No.21. 真幸黄土… 1 天草石…2.5

白薩摩生地(乾物) …2.5 橋灰…8

No.24.A. 真幸黄土…3 白薩摩生地…2

福島長石…3 橋灰…9

No.24.B. 真幸黄土…3 白薩摩生地…2.5

福島長石…2 橋灰…10 酸化鉄…0.5

No.26 真幸黄土…4 橋灰…8 福島長石…2

白薩摩生地…2 酸化鉄…1.5

以上何れも100目篩の篩を通し、釉は大胆に杓掛けを行う。

窯詰は匣鉢組又は裸積み。

焼成温度はSK9~11番、還元焰及び酸化焼成で、品種は花瓶、鉢類が主である。意匠は撚り土、櫛目、寛彫り、筆軸等を応用、絵の具は好んで焼抜きコバルトを用い、釉の流下により凸凹の部分は釉趣を異にし予期しない変化を生じ、随つて良質の作品が得られた。

素焼、登窯二回、本焼、登窯1.2の間3回、作品約500点

2.3.2. 講習会並に技術指導

本年度も中・小学校関係の築壇、工作、焼成の指導に追われた。

小学校…串木野小学校他30校

中学校…川内東中学校他22校

業界指導… 9

2.3.3. その他

見学者数…606名

試作品…681点 匣鉢92個

大素焼2回、本焼4回、錦窯6回